

保健センターでの害虫相談業務

今年も保健センター衛生課に多くの新人や異動により新たに配属された担当者が加わりました。衛生課では種々の業務があります。害虫関係業務もその一つです。

異動直後のゴールデンウィークのころは、ミツバチの分封の相談が集中するときです。大量のミツバチが飛んできて、大きな塊となる様子が市民は驚き、保健センターに連絡されてきます。まず、分封のミツバチは、人を襲うことがないこと、多くの場合、数日で別の場所に行くことなどを説明し、市民に安心してもらったうえで、場合によっては京都市が委託している業者が駆除を行うこともあると説明します。

同時に5月ごろは、シロアリの相談も多くあります。シロアリは、人への健康上の被害はないのですが、住宅の木材を加害することから市民にとっては、大きな問題です。5月ごろに住宅の周辺で翅（はね）を付けた多くのシロアリが出現します。市民の方は、住宅の木材がシロアリに食われていると心配になり、保健センターの窓口で相談に来られます。

また、アリの仲間、例えばクロオオアリも5月ごろに翅を付けた多くのアリが出現します。シロアリとアリとは、対処する方法が全く異なるので、両者を間違えなく鑑別する必要があります。ところが、異動直後では、シロアリを見るのが始めてという担当者もいます。今年も、保健センターの担当者から、念のためにと前置きをしたうえで、衛生環境研究所衛生動物へのシロアリの鑑別依頼が幾つかありました。

シロアリの繁殖行動

巣からたくさんの翅（はね）を付けたシロアリが飛び出す行動は、いわば結婚旅行です。女王になれるメスと王になれるオスの群れです。やがてカップルとなり新しい場所で巣を作り始めます。

ところがシロアリの職アリ（働きアリともいう）の体色は、名前のとおり白色なのですが、巣から出てきた翅を付けたシロアリは、名前と異なり、白色ではなく黒い色です。

シロアリとアリの違い

アリもシロアリと同じように昆虫のグループです。こうしたことから昆虫の特徴である2対の翅を持つこと、頭部、胸部、腹部に分かれること、3対の脚を持つなどは共通しています。ところがアリは、ハチの仲間です。シロアリは、どちらかというゴキブリに近い仲間です。こうしたことから観察すれば、たくさんの違いがありますが、特徴的で見やすい違いを一覧表にしてみました。

なお、アリの画像は、オオアリの仲間の種類と思われる翅のあるオスを使用しました。

シロアリの駆除

翅を付けたシロアリの出現に気付き、その群れに市販の殺虫剤を散布して、シロアリ駆除ができたと思われる方があります。しかし、翅を付けたシロアリを駆除しても、そのシロアリが出てきた本体の巣は残ったままです。この本体の巣がある限り、毎年、翅を付けたシロアリが出て

きます。本体の巣に対して対策を立てない限り、家屋の木材の加害は止められません。シロアリの駆除は、専門の殺虫剤や器具が必要ですし、技術も必要なことから、専門の業者に相談するのが一般的です。



鑑別依頼があったヤマトシロアリ



ヤマトシロアリの数珠状の触角



柄節と呼ばれる第1節

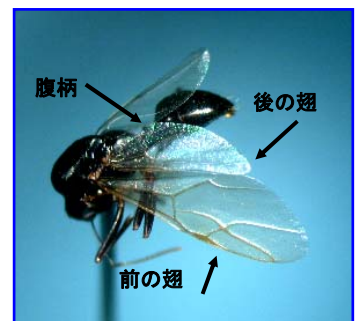
アリの触角



ヤマトシロアリの前の翅



ヤマトシロアリの後の翅



オオアリの仲間のオスアリ

	シロアリ	アリ
腹柄	なし	あり
胸と腹の間	くびれていない	くびれている
触角	数珠（じゅず）状	第1節が長い
前翅と後翅の長さ	ほぼ同じ長さ	後翅は短い